

交通事故の負傷者

85・8%が外来者

昭和五十八年消防統計まとめ

市消防本部では、このほど、昭和五十八年の消防統計をまとめました。この統計は、昨年一月から十二月までの一年間、市内で発生した火災や交通事故等による負傷者の救急活動状況をまとめたものです。

生件数で五件、損害額で一億三百万円それぞれ減っています。なお、火災の原因はガスコンロ、石油ふろ釜などの取扱い不注意によるものが五件と最も多くなっています。

観光地の特色

まよごまよご

この統計によりますと、まず、火災の発生件数は十件で、その内訳は、建物火災八件、車両火災一件、その他一件となっています。これらの損害額は約一億一千三百万円となっています。これは、昭和五十七年と比べ、発

一方、急病人や交通事故等による負傷者の搬送のために出動した救急活動を見ると、救急車の出動回数は六百二十八件、搬送人員は六百四十人となっています。

ます。これは、前の年に比べ、出動回数で二十五件、搬送人員で三十一人減っています。搬送人員を市内居住者と外来者に分けてみると、六百四十人のうち、六七・八%に当たる四百三十四人が外来者。中でも、交通事故の負傷者では、百九十七人のうち百六十九人（八五・八%）、急病人が二百五十人のうち百四十七人（五八・八%）が外来者となっており、この現象は、観光地日光ならではの現象といえそうです。

救急統計

種別	昭和57年	昭和58年
急病	265	265
交通事故	150	156
一般負傷	83	82
火災事故	0	0
自然災害事故	1	0
水難事故	0	1
労働災害事故	16	21
運動競技事故	15	6
加害	9	5
自損行為	9	12
その他	105	80
計	653	628
急病	253(118)	250(103)
交通事故	208(48)	197(28)
一般負傷	80(25)	78(28)
火災事故	0(0)	0(0)
自然災害事故	1(0)	0(0)
水難事故	0(0)	1(0)
労働災害事故	13(3)	22(8)
運動競技事故	16(2)	6(3)
加害	8(4)	5(2)
自損行為	8(3)	10(3)
その他	84(27)	71(31)
計	671(230)	640(206)

()内の数字は市内居住者

119番への通報は 落ち着いて正確に

火災や事故を発見したら、あなたはまず何をしますか？——1年間に火災や救急のために出動する消防用自動車は、全国で延べ200万回以上にも上りますが、そのほとんどは119番への通報によるものです。

あなたもいつか、119番へ通報する場面に出会うかもしれません。

消防ポンプ自動車や救急車が一刻でも早く現場に到着し、効果的な活動をするためには、場所・目標・火災や負傷者の状況などを「落ち着いて」「正確に」通報していただくことが大切です。

正確な通報は、素早い消火活動や負傷者の応急措置、病院への搬送を円滑に実施するために不可欠です。特に、火災の種類や規模によって必要となる消防車両の種類、台数などを即時に判断し、的確な出動を行うためには、その判断のもととなるあなたの正確な通報が、ぜひとも必要なのです。

だれもがいつでも「落ち着いて」「正確な」通報ができるよう、家庭の電話機のそばには、住所、目標、氏名、および電話番号を日ごろから備えておきましょう。